

監査意見

計画的・効率的な行財政運営に努めるとともに、より効果的な事業を展開し、町民の福祉とサービス向上に寄与されることを期待する。

積極的に事務事業が展開されたことにより、主要な施策をはじめ各事業にその成果が表れたものと認められる。

実質収支は6億9379万2千円の黒字となり、実質収支比率は前年度に比べ0・1ポイント減少し14・6%となった。経常収支比率は、0・3ポイント減少し88・9%となった。わずかながら改善はみられるが硬直化は続いている。地方債残高は、大規模事業の実施に伴い発行額が償還額を上回り、12億8099万4千円増加した。

また、公債費の増加に伴い実質公債費比率は、8・4%と0・2ポイント上昇した。

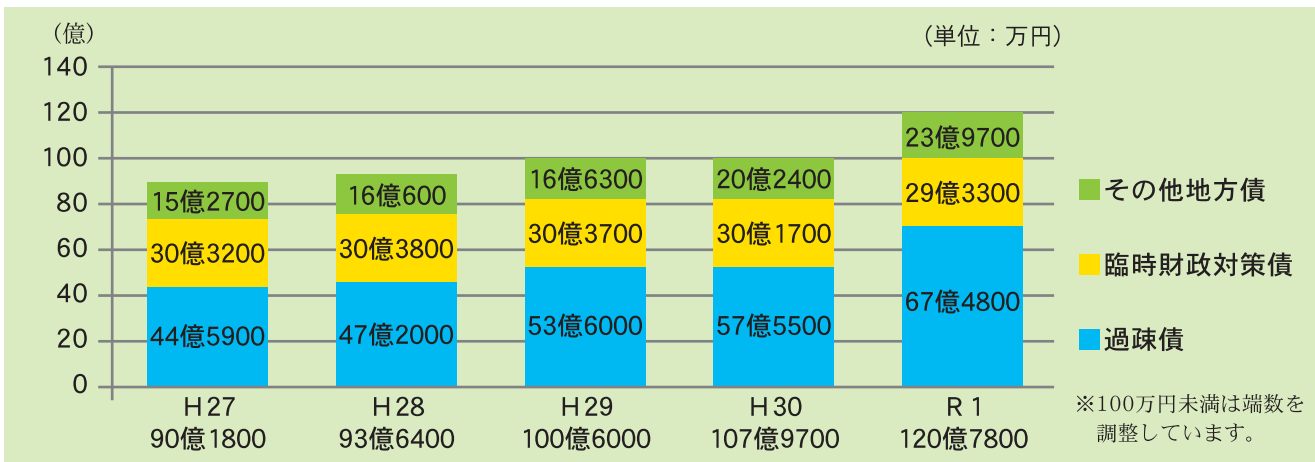
町政の重要課題において、積極的な事業が展開されたことを評価する。

厳しい財政状況が続くが、新たに策定した第6次行財政改革大綱における行動計画を着実に実行するとともに、より効果的な事業を展開し、町民の福祉とサービスの向上が図られるよう一層の努力を望む。

代表監査委員 竹田 謙一
監査委員 丸川 雅春

地方債（借金）の状況

●地方債とは、町が会計年度を超えて行う借入れのことです。



■その他地方債とは

災害復旧や義務教育施設整備等のための借り入れ。

■臨時財政対策債とは

国の財源不足を補うための地方の借り入れ。
返済額の全額が普通交付税として町に入る。

■過疎債とは

過疎地域にあたる市町村限定で、発行が認められる借り入れ。
償還額の7割が普通交付税として町に入り、残りの3割を町が負担する。

白鷹町の財政力

区分・年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	説明
財政力指数	0.292	0.288	0.283	高いほど自主財源の割合が高く、財政力が強い。
経常収支比率	88.9%	89.2%	89.4%	低いほど独自の政策のために使えるお金が多い。
実質公債費比率	8.4%	8.2%	7.5%	収入に対する負債返済の割合。